

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

試す～色水から布染めへ～／西九州大学附属三光幼稚園・保育園

年間を通して子どもたちが主体的に繰り返す遊びには、どのような遊びがありますか？

繰り返し展開される要因は、一人一人が十分に試す場や時間が保障されていること、素材・教材の面白さ、友達や保育者との関わりなど様々なことが考えられます。また、保育を振り返ることで、子どもたちの「科学する心」の変容を捉えることが期待できます。

長期に亘って色水に取り組んでいる子どもたち。「綺麗な色を残したい」と、布染めに挑戦し、自分なりに試したり探求したりしていく子どもたちの姿をご紹介します。



○ 色水～布染め～タペストリー／3～5歳児

✿ 4月～11月頃

色水遊びを楽しめるようになっていく中で、出来上がった色水を満足そうに持ち帰ったり、太陽の光に当ててずっと見たりする姿が見られる。しかし、数日経つと色水が腐れて変色することに悲しむ姿があった。

「色水の色をずっととっておきたい！」という子どもたちの願いがあったので、どうにか叶えることができないかとみんなで考えた。

そして「色水での布染め」をすることになった。いろいろ試せるように小さい布を準備した。

Aちゃん：「んーあんまり色が付かない…。どうしたらいいんだろう？」と、考えている。

保育者：まさに、探求する心が芽生えた瞬間！と考え、子どもたちが中心となって十分に考えたり試したりしながら、取り組めるように、見守ったり共感したりしていくことを心がけた。



水を入れ過ぎたらあまり染まらないことに気付いた子どもたち。水の量を少しにしたり、擦った汁だけで染めたりする姿が見られるようになった。水を使わないと、濃い色で染まることを発見した5歳児Bちゃん、すりばちで擦った汁で、綺麗に染まって満足する。



ヤマモモの実を使って染めていく3歳児Cちゃん。
ヤマモモをつぶしながら染まっていく様を楽しんでいた。
白い所がないようにと何回も布を開いては染めて、開いては染めてと繰り返していた。



花びらをしっかりと擦り、少しずつ布を染めていく5歳児Dちゃん。時間がかかりかかっているが集中して取り組んでいた。
Eちゃんは、木の実を白い布にこすり付けて、水玉もようをしていた。
Fちゃんは、筆を使って絵や文字を描いて染めて、楽しんでいた。Fちゃんは、お茶の葉っぱで揉みながら染めていた。
Gちゃんは、色水が作れそうな草花を探して、試してみても「柔らかい葉っぱの方がよく色が出るんだね！」と友達に言う。



染めた布は自分たちで干して、乾かした。
いろいろな色の布に染まり、布染め大成功！！
乾いた布はアイロンがけをして、タペストリーを作ることになった。出来上がったタペストリーを見て、満足そうな子どもたち。「これはツツジだ！」「あれはアサガオだよー！」「あっ！私が染めた色があるー！！」など、自分が染めた色が大きな作品になり、喜びの声が沢山聞かれた。草木には様々な「色」があるのだと保育者自身も改めて気付かされた。



✿ 振り返って

「色水の綺麗な色を残したい」という子どもたちの思いから始まった布染め。当初は薄過ぎであまり染まらずに悩んでいた子どもたちだった。しかし、入れる水の量を少なくしたり、草花や木の実をつぶしながら染めたり、布に直接押し当てて水玉模様を作ったりなど、子どもたちが考えて、アイデアを出しながら取り組むことができた。

子どもたち一人一人が、考えながら取り組む姿はとても生き生きとしていた。上手くいかなくても、どうしたら上手くいか友達と考え合うことが、挑戦する面白さや達成感や喜びに繋がっていった。このような経験は、色水遊びの中だけでなく、様々な活動の中でも「もっと〇〇したい！」という意欲に繋がっていった。

今回、色水遊びから、布染め、そしてタペストリー作りへと活動が広がっていった。子どもたちは、初め一人一人としての活動を楽しんでいたが、次第に友達と一緒に取り組むようになり、その中で友達同士で気づきが広がり、その活動がより豊かに展開していくようになった。

子どもたち同士の関わりを大切にしていくことで、気づきや発見から、「綺麗な色を残したい！」という思いが出てくるようになった。子どもたち同士の「やりとりする姿」「一緒に考える姿」を大切にすることによって、互いの気づきや疑問が共有され、「もっと〇〇したい」という意欲につながっていき、質的に変化して気づきや学びが深くなっていくと思われる。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」